

平成 30 年度医療事業部第 2 回研修会(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 医療地域事業部

日 時 平成 30 年 7 月 21 日 (土) 10 : 00 ~ 15 : 30

会 場 名 熊本市医師会館 2 階研修室

◇内容

- (1) 講義 10:00~11:30 『心臓病における食育の重要性について』
熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学分野 助教 有馬勇一郎先生
- (2) 講義 12:30~15:30 『患者様への関わり方～臨床心理士の立場から～』
熊本大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任助教(臨床心理士) 一美 奈緒子先生
- (3) 事務連絡等 15:30~15:45

〈有馬勇一郎先生〉

虚血性心疾患の病態・診断・治療、心不全の定義・診断・治療について動画を交えながら丁寧に説明していただきました。その中でも狭心症の機序や血管内プラーク・プラークの破綻や冠動脈インターベンションの一連の流れなどはすごくわかりやすかったです。動脈硬化が若いときから発症するが治療を行う事はほぼ無いため、動脈硬化を予防するためにも減塩の必要性があること。動脈硬化を促進する危険因子が複数あるが、脂質異常症はLDL70mg/dl 目標と食事療法のみでは達成が困難であり、薬剤の重要性などを改めて学びました。

そして、心不全は再入院を繰り返し緩和などの概念が出された病気であるため、私たちもそれぞれのステージに応じて対応を行っていくことの重要性を再認識しました。心不全加療の中で用いられる薬剤の種類や効果、体内での働きなどもご紹介いただきました。

生活習慣病胎児発症起源説と先生の研究を交えながらお話いただき、興味深い研究であることと、今後の診療や私たちの栄養指導にも、活かしていけるような内容でした。

現在心不全患者の栄養管理は確立したものが無く、私たち栄養士としても日々の研鑽が必要であることを再認識し日々の業務への意欲に繋がる研修会でした。



〈一美奈緒子先生〉

先生の自己紹介から始まり、臨床心理士さんの仕事内容や認知機能に関わる様々な事をお話いただきました。また、話すことの効果として心の浄化作用があることを初めて学びました。管理栄養士として心の浄化作用を引き出すことを目的に患者さんと話す事が時には必要になると思いました。それとは対照に沈黙の意味についても学び、適切なコミュニケーションを今後より一層行える知識が身についたと感じます。うつ病、双極性障害、摂食障害、統合失調症、認知症の際に管理栄養士と臨床心理士がどのような方法でコミュニケーションをとる事があるか、などもお話いただきました。

ロールプレイングを通じて患者との関わり方や傾聴する方法などを改めて学びました。会員の皆さまもコミュニケーションのスキルが高く、話がすごく盛り上がるような所も見られ普段から患者さん・施設の方などの話を上手に伺っている光景が目につかぶようでした。

ご講演頂きました有馬先生、一美先生ありがとうございました。

